罷業宣言

東京交通労働組合

今回電気局の発表した整理案は、我々従業員の生活を破壊し、餓死を強要するものである。一万一千名全従業員の給与総額の五割乃至六割の減額、所謂引下げによる、新規採用者と云ひ如きことは、ただに我々市電従業員のみならず、今後不況に名を藉る資本家の常套手段として行はるゝに至りては、甚だ所全労働者勤労者にとって重大なる問題である。しかも電気局が公営事業として斯かる手段に出たことは、我々の生活が破壊されるのみならず、重要なる社会問題としても断じて放置し能はざる所である。

我々は斯かる無謀なる整理案に対し、絶対反対の要求を提出したのであるが、電気局は一顧だも与へず即時拒絶したのである。しかして問題解決のため凡ゆる最善の努力も徒労に帰し、罷業決行の止むなきに至る。

然しながら我々は市民諸氏の支援、機関としての重責を考へ、従業員の奮決行の及ぼす迷惑の甚大なるを思ひ、事前に予告し罷業解決を求めるしだである。此度に於ては九月五日早暁より市電総罷業を強決行を宣言する。

然しながら我々は電気局に於て其の非を悔り整理案を撤回するならば何時にても罷業を打切り就業することを誓ひ、又頑迷なる態度を持するに於ては断乎罷業を継続することを保して宣言するものである。

市民諸氏の絶大なる同情と支持を切望する次第である。

一九三四、九、四、午後一時

罷業決行に際し